

# Traders Market Report

トレーダーズ・アイ



毎週月曜日(祝祭日除く)発行

平成20年2月25日

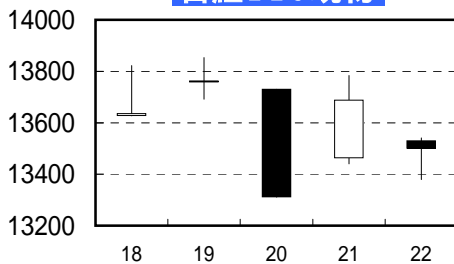
【週刊】証券レポート

## Market Review for last week

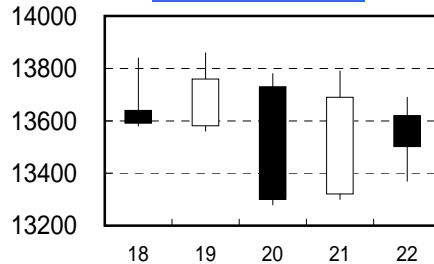
2008/2/18 ~ 2008/2/22

	OPEN	HIGH	LOW	CLOSE	CHANGE
日経平均(現物)	13627.31	13853.21	13310.37	13500.46	-122.10
日経225先物	13,640	13,860	13,280	13,500	-110
ドル円	107.85	108.37	106.73	107.17	-0.64

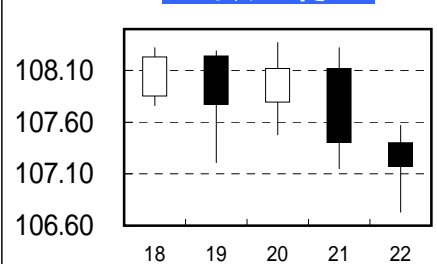
日経225現物



日経225先物



ドル/円



## 今週の見通し

トレーダーズ投資顧問株式会社

### 【先週の株式市場】

先週の東京株式市場は大きく上下しながら結局もみあいとなりました。週明け月曜日、前週末の米国市場が下落で終わったことから東京も下げが予想されていましたが、朝方の外人動向が買い越しとなったこともあって先物中心に大幅上昇となりました。しかし後場になると売り優勢の展開となり、引けは僅か12円高の13635円となりました。火曜日、米国市場が休場で主要な相場材料はなかったものの、前日の欧州市場が大幅反発したことや為替の円安傾向などから再び寄り付きは大幅高となりました。後場一段高の場面もあったものの、今月の高値である13800円台に来ると上値が重くなり、引けは122円高の13757円となりました。水曜日、米国株式小幅下落で東京市場も小安く推移していたものの、午後になると米系プライベート・エクイティ・ファンドが資金の借り換えに困難を来しているとのニュースで一段安となり、447円の大暴落となりました。木曜日、懸念されていた米国株式市場が上昇し、投資ファンドの資金繰り難のニュースも相場に影響を与えなかったことから東京市場は377円高の大暴反発となりました。金曜日、米国市場がマクロ経済指標の悪化から下落したことを受けて東京市場も終日安値圏で推移し、187円安の13500円で週を終えました。結局週間ベースの日経平均は0.9%の小幅下落となりました。

### 主要マーケットの動き

	先週終値	週間リターン
日経225	13500.46	-0.90%
TOPIX	1321.37	-1.01%
NYダウ	12381.02	0.27%
ナスダック	2303.35	-0.79%
ドル円	107.51	-0.36%

(Source: Bloomberg)  
 ドル円終値は東京市場金曜日の午後4時前後の数値を使用

### 【今週の展開】

1月22日に12000円台の安値を付けてから丁度1月が経過しました。先週前半まで東京株式市場は戻り歩調となり、朝方の外人動向が買い越しに転じたことなどから一段の上昇を期待する声もありましたが、結局週後半には市場エネルギー(出来高)が縮小し方向感に乏しい動きとなってしまいました。債券先物との組み合わせで株式先物を大量に売買する投資家が相場をかく乱しているとの観測もあり、方向感には欠ける一方ボラティリティは高まっています。

チャート的には上値切り下げ、下値切り上げの三角持合を形成しておりそろそろどちらかに動きそうな気配もありますが、国内マクロ経済環境や米国のマクロ、金融環境を鑑みるとアップサイドを期待するのは時期尚早と思われます。他方、サブプライム関連や企業業績の鈍化などの悪材料も相当程度織り込みが進んだとも思われ、下値の堅さもかなり意識されて来ました。しかし焦点の米国モロライン救済問題は未だ解決せず、足元最大のリスク要因であることに変わりはありません。今週は日米とも重要な経済指標の発表が控えており、それらの結果によって相場が上下する可能性が高そうです。

### 今週の主要イベント

日本	米国
2月28日 鉱工業生産	2月26日 中古住宅販売件数
小売売上	生産者物価指数
2月29日 失業率・有効求人倍率	S&Pケースシャー住宅価格指数
全世帯家計調査	2月27日 消費者信頼感指数
消費者物価指数	耐久財受注
住宅着工戸数	2月28日 新築住宅販売件数
	10-12月期実質GDP改定値
	PCEコアデフレーター
	個人所得・支出
	シカゴ購買部協会景気指数

注)米国経済指標の日付は日本時間

## 今週の予想レンジ

2008/2/25 ~ 2008/2/29

日経平均先物	13,400	13,600	13,800	14,000	14,200	14,400	14,600	14,800